

地域計画（モデル地区）の取組状況（令和6年12月末時点）

農事組合法人を中心に地域の農地を集積・集約化				群馬県太田市 寺井地区	
農業を担う者数 （うち担い手）	約30経営体 （約8経営体）	農地面積 （うち農振農用地）	61.6ha （49.1ha）	主な農畜産物	米麦、大豆
農業地域類型	都市的地域	遊休農地	0.3ha	現状の集積率 （目標）	82% （85%）

地域の現状と課題	将来の地域農業の方向性
・農事組合法人「寺井」（水稻17ha、麦19ha、大豆7.7ha）により集積・集約化が進んでいる。 ・同法人の構成員も含め、地域内農業者の高齢化が進んでおり、農業後継者・新規就農者の確保が必要である。 ・個人による大型農業機械の所有は難しく、大規模経営ができない。 	・寺井地区を一つの法人が経営し、ブロックローテーションにより通年の農作業等を捻出することで、雇用の促進を図る。 ・新たな人材の受け入れや育成、耕作放棄地を含めた規模拡大を図る。 ・若者へ大豆栽培のノウハウを引き継ぐ。 ・「寺井の大豆」を軸にブランド化の推進、高収益化を進め、地域農業の魅力を発信し新たな担い手を確保していく。 

協議を進める過程で発生した課題	取組経緯（課題への対応）及び今後の予定
①耕作者の高齢化・後継者不在 農事組合法人「寺井」の構成員も含め、地域農業者の高齢化、6割の経営体では後継者がいない。（アンケート結果） 現状の米麦生産だけでは収入が足りないため、新規就農を考える若者がいない。 ②若者が農業に関心がない 農業にかかわる機会の減少から、農業への関心が低い。 ③ブロックローテーションの推進 地域全体でブロックローテーションを進めるためには旗振り役が必要。	・令和5年4月 農業委員会によるアンケートを実施 ・令和5年7月 協議の場を2回（7/11、7/25）開催 第1回「我が地区が目指すべき農業の在り方について」 目標地図の素案作成も並行して実施 第2回「理想の地域にするために必要な行動案を考えよう」 ・令和5年9月 3回目の協議の場を開催（9/26） 地域計画及び農業委員会が策定した目標地図の素案を示し、質疑応答を行った。 ・令和5年10月 市HPにて「協議の場の結果」公表（10/6） ・令和7年3月 市内の他地域の地域計画と共に公表予定。 